

つくばスーパーサイエンスシティ構想2.0

～科学で新たな選択肢を、人々に多様な幸せを～

つくば市政策イノベーション部スマートシティ統括監 中山 秀之

つくば市の市勢

➤ 人口

261,773人

(令和7年6月1日現在)

➤ 国際研究学園都市

150

研究機関

23,000人

研究関係者

8,500人

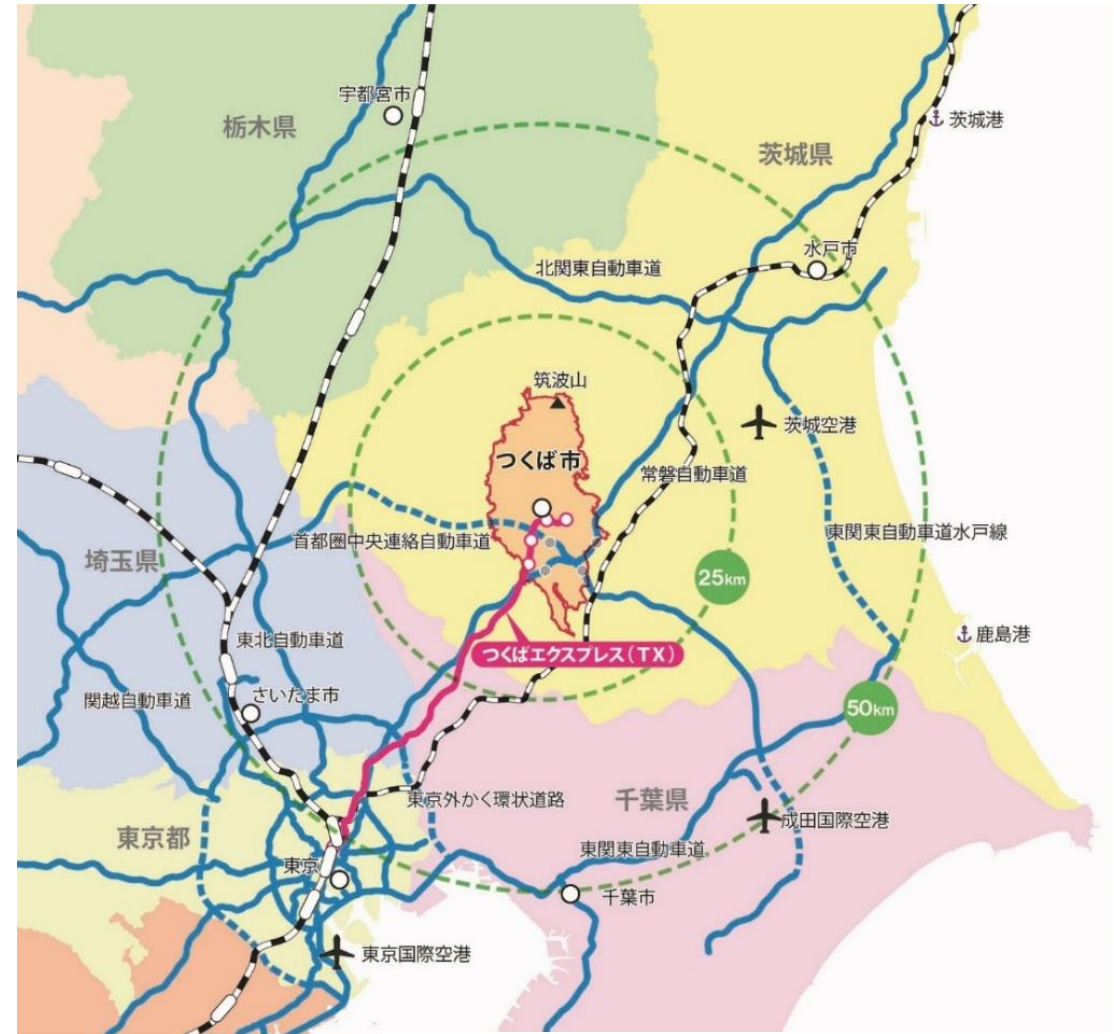
博士号保持者

14,000人

外国人

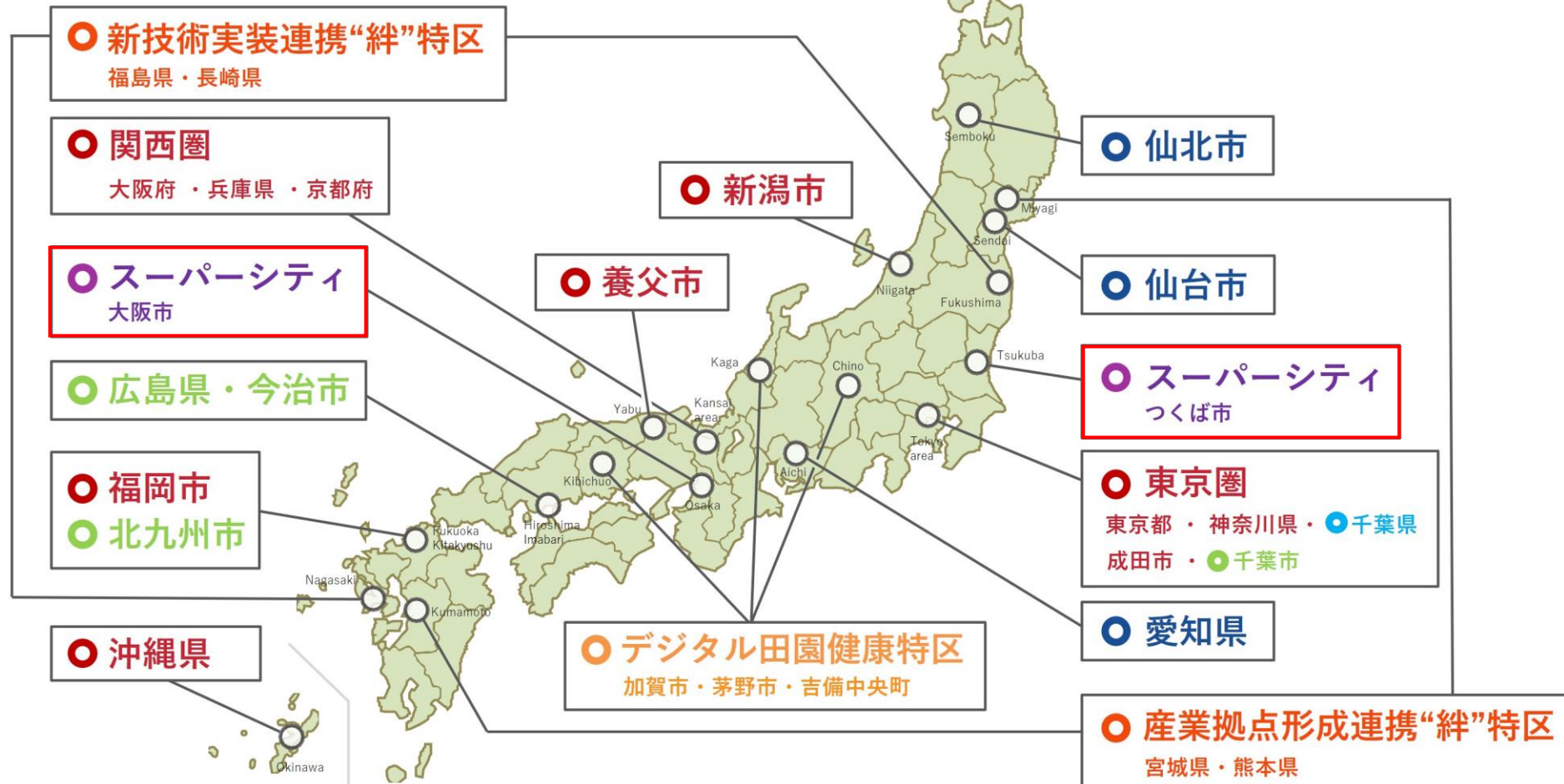
18,000人

大学生



東京駅から約1時間、成田国際空港から約1時間

- **1次指定**
[平成26年5月1日]
- **2次指定**
[平成27年8月28日]
- **3次指定**
[平成28年1月29日]
- **スーパーシティ**
[令和4年4月15日]
- **デジタル田園健康特区**
[令和4年4月15日]
- **連携“絆”特区**
[令和6年6月26日]
- **北海道**（「金融・資産運用特区」創設に伴う指定）
[令和6年6月26日]
- **千葉県**（東京圏の追加指定）
[令和7年7月2日]



つくばスーパーサイエンスシティ構想



～科学で新たな選択肢を、人々に多様な幸せを～



つくば市は、住民のつながりを力にして、大胆な規制改革とともに先端的な技術とサービスを社会実装することで、科学的根拠をもって人々に新たな選択肢を示し、多様な幸せをもたらす大学・国研連携型スーパーシティの実現を目指しています。



市長
五十嵐 立青



全体統括者（アーキテクト）
筑波大学 鈴木健嗣 教授



- パーソナルモビリティ・ロボットの本格導入
- ロボット・ドローンによる荷物の自動配送



- インターネット投票
- 外国人向け多言語ポータルアプリ



- マイナンバーなどを活用したデータ連携による健康・医療サービス



- 災害時要支援者の迅速な避難誘導と医療連携



- 先駆的な3Dデジタル基盤の構築とサービス提供



- 外国人創業活動支援
- イノベーション推進のための国立大学法人の土地建物の貸付
- 調達手続の簡素化



企業及び大学・研究機関並びに住民との連携により、
住民が抱える課題の解決に資する又は未来志向のサービスを精力的に組成し、
実証に挑んできた。

連携体制の強化(つくばスマートシティ協議会)



つくばスマートシティ
協議会 一般社団法人化

会員 **58** 機関 (R7.6.1時点)

多数の研究・教育機関も加入
筑波大、筑波技大、産総研、JAXA、農研、
国環研、森林総研、防災科研、国総研、土木研
など

行政サービス

インターネット投票

インターネットでいつでもどこからでも選挙の投票を

高齢者や障害者をはじめ、移動が困難であったり、代理投票を依頼するのが気が引けるなど、様々な理由で投票をあきらめざるを得ない人がいます。そうした人たちの利便性を良くするため、厳正な個人認証と高度なセキュリティを実装したインターネット投票の導入を目指します。

インターネット投票



投票所まで行か
なくても投票



自宅で投票



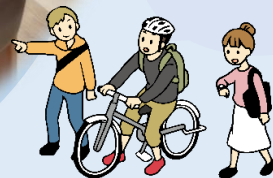
目が不自由
でも投票



子育てで忙しく
ても投票



若者も投票



主な対象

高齢者、障害者等、移動が困難な人

※最終的には、子育て世代、若年層等、市民全体へ拡大

利用シーン

- 投票所まで移動が困難でも自宅等で投票できる
- 視覚障害者は慣れたスマホで投票できる

様々な効果

- 24時間いつでも投票できるので、子育て、若年層等も利用しやすくなる
- すぐできるので、じっくり考える時間も生まれる

行政サービス

行政における生成AI活用モデル研究

■ 現状と課題

住民中心のスーパーシティを目指しているが、“市政には市民の声が活かされていると思う”市民の割合は26.9%に留まっている等、市政への住民意見の反映にはまだ課題がある。

■ 目指す社会

住民の“今の声”をいち早く把握し、意見整理・課題を可視化することで、今後の政策、行政サービスに活用し、より満足度の高い様々な行政サービス（住民参加型の行政サービス）の創出、実現を目指す。

■ R6 取組概要

- 筑波大学と共同研究を行い、昨年度内閣府調査事業で構築したダッシュボードのアップデート（見やすさの向上や、議会議事録以外のデータでも取込み可能なように汎用性を持たせる）
- ダッシュボード以外の部分（ダッシュボードの課題に紐づいたつくば市の現状の政策表示、新たな政策立案、自由検索機能）のシステム構築を行い、一連のシステムを1画面で表示できるように画面設計



行政サービス

情報格差解消促進事業（スマホ講座）

■ 現状と課題

スマートフォンの保有率は若年層に比べ高齢者層の方が低い水準にあり、生活関連情報の収集やオンライン医療サービス等のデジタル技術を生かしたサービスの利用に世代間格差が生じている。

■ 目指す社会

つくばスーパーサイエンスシティ構想を下支えするデジタルインフラ整備のため、スマートフォンの普及及び利用促進を行うことで、情報格差が解消された社会を目指す。

■ R6取組概要

- つくば市全域を対象とし、情報格差解消を目的としたスマートフォンの利用促進施策（スマホ講座）を実施
- 小田地区をモデルとした市民が自立的にスマートフォンを活用する仕組みづくりの検証を行い地域自走の仕組みづくり
- 世代間交流を目的に教育機関（茗溪学園）との連携施策を実施



モビリティ

つくばスマートモビリティ

必要なとき、必要な場所へあらゆる移動手段を

バスやタクシー、つくチャリ、つくモビなどの市内のさまざまなモビリティサービスを連携し、市民一人一人に最適な移動手段をスマホなどで調べることができる。

つくばスマートモビリティ



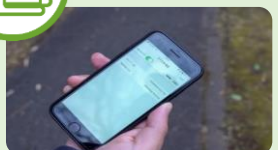
パーソナルモビリティシェアリング



自動運転バス



ハンズフリー
チケットティング



【スマートモビリティエリア】

次世代モビリティが街に溢れる
「科学技術が日常に溶け込み、イノベーションが生み出されるエリア」



自動追従ロボット



AIオンデマンド
乗合タクシー



こどもMaaS



主な対象

つくば市民全体

利用シーン

- 自宅から目的地まで、最適な移動手段をスマホで調べることができる。

様々な効果

- 利用者の生活様式や、天気によって、最適な移動手段が提案される。
- 目的地までの途中で、利用者ごとに興味のあるお店や行楽地が提案され、楽しく移動できる。



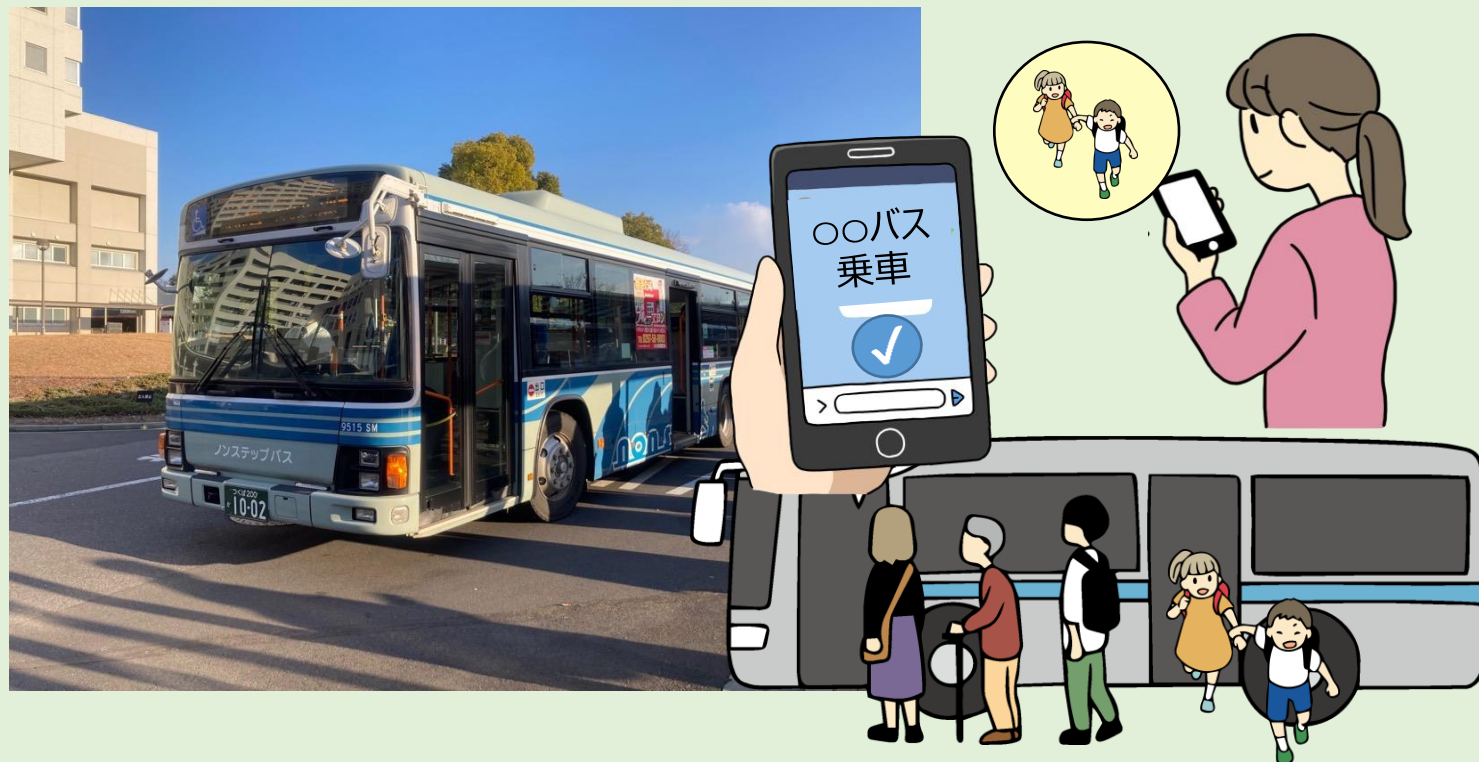
モビリティ

ハンズフリーチケットティング

ハンズフリーチケットティングで公共交通を便利に利用

- ・ スマートフォンとバス等が連携することで、手ぶらで乗降判定や運賃決済
- ・ 様々な交通機関をシームレスに接続し、公共交通の利便性を向上させるとともに、医療機関や商業施設等との施設連携によって移動に新たな付加価値の創出を目指す。

ハンズフリーチケットティング



主な対象

つくば市民全体

※特に障害者などの移動制約者

利用シーン

- ・ 荷物で手がふさがっていても、バスなどの公共交通をハンズフリーで乗り降りできる
- ・ ご家族の移動の様子（予定のバスに乗ったかなど）を自宅から見守り

様々な効果

- ・ 公共交通の利便性が向上して、自家用車に頼らず市内を移動しやすくなる
- ・ 取得した移動データを交通政策に反映し、より便利な公共交通を実現



モビリティ

つくモビ パーソナルモビリティのシェアリングサービス

通勤・通学等の移動支援や快適なつくばのまち巡りを実現

つくばエクスプレスやバスなどの公共交通と連携した市民の新たな足として、通勤通学等で自宅からバス停や駅までの移動手段、まちなかを気軽に散策する「まちぶら」の移動手段などに利用可能



主な対象

つくば市民全体
観光客

利用シーン

- ・通勤通学等における自宅からバス停や駅までの移動手段として
- ・飲食店や商業施設へ立ち寄ったりまちを巡る移動手段として

様々な効果

- ・移動手段の選択肢が増える
- ・主に高齢者や障害者、免許がない方などの移動手段となる
- ・楽しく快適にまち巡りができる
- ・まちの賑わい向上



ヘルスケア

小児オンラインかかりつけ医

小児医療機関の診療時間外に遠隔診療アプリを活用して医療相談とオンライン診療が受けられる

- ・ R4・5年度に実証を重ね、「小児かかりつけ診療料の算定基準に、夜間・休日の非常勤雇用医師による体制及び対応（オンライン含む）等について評価する診療報酬」を新設
- ・ 「つくば休日夜間小児デジタル急患センター」としてR6年度に実装

主な対象

相談対象は0歳から中学3年生までのつくば市民

利用シーン

夜間や休日の急な子どもの体調不良時にオンラインで医師の診療を受ける

様々な効果

- ・子育て世代の安心に寄与
- ・不要不急の救急受診の抑制 等



【つくばスーパーサイエンスシティに関するアンケート調査】の主要結果（分野別集計）

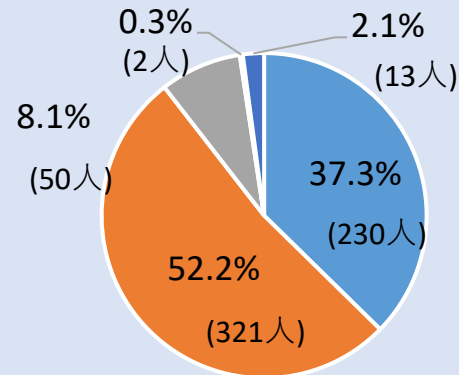
○期間：令和7年(2025年)2月27日(木)～3月12日(水) 14日間

○対象：WEB回答と無作為抽出の市民3,000人（郵送）による調査

○回答者数：616人（WEB：439人 郵送：177人）

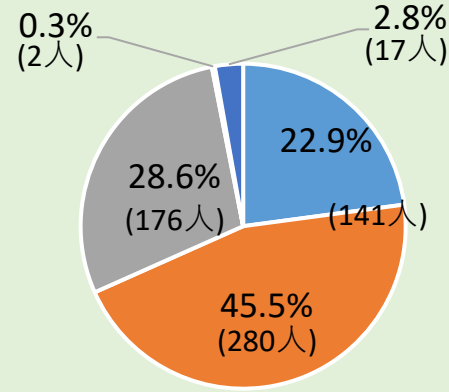
スーパーシティで「最も実現してほしい」サービス

行政サービス分野



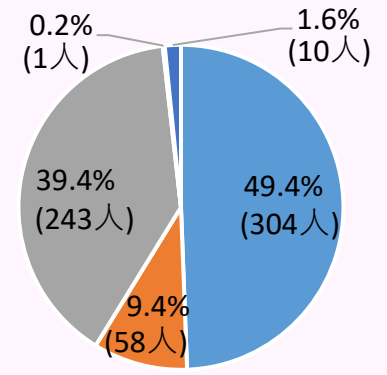
- インターネット投票
- 行政窓口のデジタル化
- 生成AIを活用した市民の声見える化
- 無効票
- 無回答

モビリティ分野



- つくばモビ
- つくばスマートモビリティ
- ハンズフリーチケット
- 無効票
- 無回答

ヘルスケア分野



- オンライン在宅療養支援
- 「食」の提案生活習慣病支援
- 「もしもの時」を支える情報連携
- 無効票
- 無回答

〈選択した主な理由〉 ※生成AIで分析

【インターネット投票】

- ・ 24時間いつでも投票ができるのが便利
- ・ 投票意欲（投票率）の向上につながる

【行政窓口のデジタル化】

- ・ 移動時間や待ち時間がなくなり便利
- ・ 手続の手間を簡素化できる

【生成AIを活用した市民の声の見える化】

- ・ 市民の声をより行政に反映できる

【つくばモビ】

- ・ 車が無くても気軽に移動出来る手段がほしい
- ・ 高齢になり、運転が難しくなった際に利用できると便利

【つくばスマートモビリティ】

- ・ 個々に最適な移動手段を提案してもらえて便利
- ・ バス等移動に不慣れでも、スムーズに利用ができそう

【ハンズフリーチケット】

- ・ 公共交通機関の利便性が向上 ・ 手はふさがっていると便利

【オンライン在宅療養支援】

- ・ 体調不良で病院へ行くこともできない時に役立つ
- ・ 独居家族が何かあった際に安心できる

【「食」の提案生活習慣病支援】

- ・ ・ 健康献立がわからないため便利
- ・ ・ 気軽に毎日の生活習慣の向上が期待できる

【「もしもの時」を支える情報連携】

- ・ 緊急時の対応に安心感がある

【つくばスーパーサイエンスシティに関するアンケート調査】の主要結果（自由意見分析）

モビリティ、行政、インフラ、ヘルスケアの「困りごと」を生成AIで傾向分析（イメージ）

市内の移動や荷物配送・受取の困りごと

公共交通 (106)

- ・バスの本数の不足
- ・交通手段の地域間格差
- ・公共交通の連携不足
- ・交通手段の選択肢が不足 等

交通渋滞 (44)

- ・交通渋滞が多い
- ・駐車場不足 等

高齢者
(11)

歩道
(9)

その他 (30)

- ・特にない

荷物受取
(9)

駐車場
(7)

行政サービス利用時の困りごと

行政サービス (41)

- ・手続の煩雑さ
- ・図書館施設の充実

デジタル化 (32)

- ・オンライン対応

交通 (29)

- ・アクセス不足

その他
(17)

窓口対応 (34)

- ・開庁時間が短い
- ・待ち時間が長い等

意見なし (32)

子育て支援
(11)

防犯・防災・インフラに関する困りごと

防犯 (60)

- ・街灯不足
- ・防犯カメラの設置要望
- ・自動車盗難
- ・情報提供

インフラ (45)

- ・上下水道整備
- ・老朽化対策
- ・歩道整備
- ・道路舗装

意見なし (26)

その他 (21)

治安 (18)

災害 (15)

交通 (10)

医療・福祉・介護サービス利用時の困りごと

医療 (71)

- ・医療機関の待ち時間
- ・医療機関が近くない
- ・医療機関の予約が取りにくい
- ・オンライン診療でできる病院の不足

その他 (43)

- ・特にない

福祉 (21)

- ・介護支援等

交通
(9)

高齢者
(7)

情報
(7)

子育て
(6)

つくばスーパーサイエンスシティ構想 2.0

～科学で新たな選択肢を、人々に多様な幸せを～



社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」SDGsの精神の下で、世界最高峰の科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。

これにより、**住民参加を基盤とし、住民と住民、住民と行政のつながりを深化**しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する住民中心のスーパーシティを目指し、「ミドルステージ」へとフェーズアップして先端的服务の実装に向けた取組を推進する。



市長
五十嵐 立青



全体統括者（アーキテクト）
筑波大学 鈴木健嗣 教授

先端的服务の実証・実装に向けた取組方針

データ連携基盤を活用し、生成AIや意見集約プラットフォームを活用して誰もが政策に声を届けることのできる仕組みを構築

行政サービス



デジタルとAIで住民中心のまちづくりを

つくスマ等を活用してスマートフォン等から24時間行政手続ができ、また、誰もが市政・政治に参加しやすい地域社会の実現を目指す。

モビリティ



必要なとき、必要な場所へあらゆる移動手段を

様々なデータを連携させることで、誰もが自家用車に頼らず、自宅から目的地までシームレスに移動できる地域社会の実現を目指す。

医療福祉介護



人生100年時代に自立していきいきとした生活を

誰もがいつでもどこでも必要な医療サービスを受けることができ、また、希望に応じて生活習慣の改善に取り組むことを通じて、健康寿命が延伸された地域社会の実現を目指す。

インフラ・都市デザイン



安全で持続可能な都市空間を

誰もが安心安全に生活できるようにするための防犯・防災情報の配信に取り組むとともに、市民をはじめとする多様な主体が連携して健全な都市インフラの維持管理に資する既存事業の効率化や高度化を目指す。

重点的に取り組む事業例

<行政窓口のデジタル化>

R7年度末にDXSaaSシステムの運用開始を目指す。

<インターネット投票>

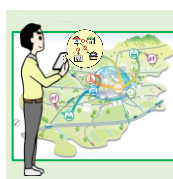
特例措置の検討と並行し、効果・関連動向・ニーズの把握やシステム検討を進める。



<つくばスマートモビリティ>

R7年度にスマートモビリティプラットフォーム仕様検討、R8年度にシステム構築、R9年度に事業開始を目指す。10km/hパーソナルモビリティの公道実証をR7年度に開始し、早期の社会実装を目指す。

自動運転について実証を重ね、R9年度までにレベル4自動運転バスの定常運行の実現を目指す。



<オンライン在宅療養支援>

<「もしもの時」を支える情報連携>

R7年度中に実証を開始し、R9年度に事業開始を目指す。



<住民の声を取り込んだプレイスメイキング・インフラマネジメント>

生成AIと意見集約プラットフォームを活用したプレイスメイキングとデジタル技術を活用した市民からのインフラ関連情報収集の仕組みを整備する。

目指す社会



- ① 移動の自由と健康な自立を人々へ提供し、安心して暮らせるために都市と郊外の二極化を是正する。
- ② 人生の各段階を支える行政サービスを人々へ提供し、信頼ある行政が支える多文化共生の社会を実現する。
- ③ 安全で持続可能な都市空間を人々へ提供し、活力ある都市力を向上させる。



世界の
あしたが
見えるまち。
TSUKUBA